グローバル化時代における技術と文化の相互作用

イワン・カルチョフ

ソフィア大学教授(ブルガリア)

要約:

本論文は技術と文化の相互作用に関するものである。分化の水準にとって技術が重要な役割を果たしている理由が明らかにされている。一方で、技術は文化の重要な部分である。他方、精神文化は技術のレベルによって大きく影響される。この意味で、この論文はグローバル化時代におけるバルカン文化のアイデンティティを保持するために、バルカン文化の発展にとって何が必要であるかを考えるものである。

歴史のパノラマを見れば、哲学、科学、技術、精神文化、生活の質、経済、商業のレベルの間に調和が存在したことが確かめられるであろう。この調和は偶然ではない。それはこれら人間の活動の間の密接な関係によって規定される。

また、人類歴史の時代は、石器時代、新石器時代、銅器時代、青銅器時代、鉄器時代…無線時代、宇宙時代などと呼ばれていることも知られている。現代の時代区分化の一つは人類歴史を農耕前文明、農耕文明、産業文明、情報文明(脱工業化社会)に分けている。最近、この時代区分により頻繁に出会うことができる。この時代区分は社会経済関係や産業の組織化に基づいて、原始社会、奴隷社会、封建社会、資本主義社会、社会主義社会に分けている。これらのすべては私たちに人間社会の発展の中で具体化された技術複合体や知識の根本的な役割を直感的に感じているのだと思わせる。こうした考えを発展させた哲学者（アルヴィン・トフラーなど）もいる。

本文:

文明発展のための技術の役割の定義において疑問を持つことがあるとすれば、技術レベルが

特定の国ないし地域の物質的繁栄、文化レベル、政治的重要性などを規定することが良く知られていることである。技術的な実績は創造、普及、文化、国の価値観、言語、およびイデオロギーを他国に押し付けるためにさえ使用される。

技術的に力がある国は、大きな意味で文化を生み出し拡散させる国である。彼らは芸術の分野でも好みを押し付ける。国際的に何が良くて、何が悪いかを規定する。自国の利害に従って国際関係を規制する。技術と文化の関係について話すとき、技術があらゆる社会の文化の重要な部分であることを強調することが必要である。

技術と精神文化の相互関係

技術複合体が創造的な人々に有利な状態を確立し、高いレベルの技術が精神文化の分野でより大きい割合の人々を精神文化の分野に排出することの他に、精神文化自体が技術を通してより明確に、より広く、より速く消費者に到達する。

印刷技術、ラジオ、テレビのおかげで、国の言語が国の領土の中で根づくようになった。

建築や工学デザインのように、芸術と技術の境界に存在する活動もある。

技術なしには想像できない芸術、例えば、インストルメンタル音楽、芸術写真、コンピューター・アニメーション、電子音楽などもある。映画の芸術は技術開発によって創造されたものである。様々なイメージを創りだすことができるコンピューター技術はこの芸術の大きい範囲の可能性を与えてくれた。

電子音楽は開発されたアルゴリズムの基盤の上で作曲されるという状態においては、電子音楽の作者がどの程度に作曲家であり、どこからが技術者であるのかは言い難い。

このような状況は映画製作者についても同様である。しかし、他の状況、例えば劇場作品においては技術が重要な役割を果たす。技術の進歩とともに、この芸術は非常に豊かになった。現代のステージは事実上、複雑な技術装置である。異なる技術や技術効果が用いられている。劇場におけると同様に、幻想的芸術と技術の相互作用がある。重要なのは、音楽芸術の発展における視聴覚技術の役割である。それは演技者のスキルの完全性や観客の好みの改善に貢献する。

コンサートに行く可能性のない人々に著名な人の公演を楽しむ機会を与えてくれる。

芸術が技術複合体に問題を生じることもあるが、その解決の結果は複合体を豊かにすると言うこともできる。

グローバル化時代の技術と文化: バルカンにおけるグローバリズムと文化

歴史の事情により、バルカンは小国に分割された。それと同時に、産業社会が国に分かれた経済の時代において、産業の進歩には国の経済力、大きな国内市場および資源が必要であった。これらの条件の欠如がこの地域が技術的に停滞した理由の一つである。技術の進歩は科学に基盤を置くものであるが、特に今の時代の科学はその発展のためには、財政的及び技術的な多くの資源を必要とする。新しい現象を押し付けるもの--共同の科学研究のために多くの国の努力を統合すること。（例えば、ヨーロッパ核研究センター(CERN)、アリアナ・ロケット建造のためのヨーロッパ諸国連合など） コンソーシアム（共同事業体）のような巨大技術プロジェクトの実現のための努力の結集を我々は知っている。エアバスは飛行機の最大の製造者の一つになった。

小さな措置――バルカン諸国は人的、財政的、物質的資源が少ないので、世界を先導するような科学研究所や産業を発展することができない。他方、政治的に現われるナショナリズムやナショナリズムに基づく熱狂的感情的な突進は科学、技術、文化の分野における団結の障害となる。

我が国の知的潜在能力のかなりの部分が定着し、国民間の差異を証し、分断するようになって既に１７０年。そしてその結果は明白である。国民間の区別性の追及はもはや十分であり、今や我々は国民を結集させ、団結させてくれるものを探求しなければならない。紀元前３４０年から 1878 年までの期間の大半は、我々は一つの国であったし、我が国の歴史を一緒につくってきたが、歴史を一緒に書いたことは一度もない。

我々バルカンの知識人は、過去の選択的精査を減らし、未来に向かわなければならない。最も重要なことは、新しい技術が文化に与える影響を予見することである。

分裂している限り、バルカン諸国は科学上の発見や技術的な考え、新しい産業や文化を生み出す中心的存在の一つと見られることはできない。知的潜在能力は今なお移民問題に関心を持

っており、これが続くであろう。バルカンの科学研究開発センターの創設を考えるのがバルカン諸国政府の合理的な政策である。すべてのバルカン諸国がヨーロッパ経済共同体に受け入れられて、アイルランドやポルトガルのような運命を持つことを願う。ヨーロッパがトルコを受け入れ、トルコ人が自分たちはヨーロッパ人であると感じるなら、有利な条件でバルカンが技術進歩の中心の一つになると期待できる。しかし、我々はいつも重要でないものを持ち続けることにあるであろう。

20 世紀の中頃以後、人類は情報社会時代に入った。技術、特に通信技術の進歩は「地球を地球村に変えた」と言うことが受け入れられている。グローバリズムには善悪の両面がある。それは民族の文化的アイデンティティを危険にする。これに関連しているのは、次の質問である: バルカン諸国民の文化的アイデンティティを保持するためには何が必要であるか?

第一に、私たちは自然のプロセスに一致しなければならない。諸国民の価値体系と文化のアイデンティティは現在まで発展してきた。速い技術的進歩は社会の時間を加速する。将来はもっと速く発展するだろう。

より注意深く精査してみれば、危険にさらされている文化的アイデンティティに関してより正確に言えば、グローバリズムは技術的に発展した国民の文化的アイデンティティと価値体系を押し付けることを示している。発展がそれほどでない諸国は、より先進国からの文化と文化の圧力にさらされている。我々バルカン諸国はそれほど発展していないグループにおり、発展の過程がどのように進展するかにかかっている。我々は以前の時代を逃してしまった。今こそ成功しなければならない。

以前の社会においては、耕作地、機械、工場が繁栄の土台であったが、今からは知識もその基本的要素になるだろう。第三次産業革命の訪れとともに、資格と知識が強固で永続的な競争に有利な源泉になるであろう。(c.149) 我々がバルカン諸国が持つべきと主張する高度に資格のある科学的潜在力は一つの魅力的な機会を見せてくれる。情報社会時代に知識が最大の宝物であるとすれば、我々の地域は良い場所にあるということができる。レスター・サローは、地上で最も金持ちであるビル・ゲイツが持っているのは知識だけである、と言っている。もちろん、問題はそれほど単純ではない。強力なソフトウェアは強力な(高速の処理能力と大容量のメモリを持つ)コンピューターを必要とする。そして、知識以外に必要な技術レベルも要求される。

技術の進歩は我々の文化的アイデンティティの維持や相互により良く知り合うために何かをなすことができるであろうか? できる! 技術的進歩の結果、グローバル主義が現れたとして、技術的進歩を批判する批評家たちがいる。しかし、技術を使用するのは人間である。人間は良いことにも悪いことにも技術を使用できる。我々ができる最少のことはコンピューター翻訳のためのソフトウェアを開発することである。それはお互いにもっと学んだり、知る機会を我々に与えてくれるだろう。我々にとっては各国の言語でバルカンの雑誌と（電子版を含む）書籍を発行する方がずっと容易である。翻訳本の価格ははるかに安くなるだろう。翻訳ソフトウェア製品は、新しい形式のインターネット通信を可能にし、その通信で皆が自分の母国語で書き、近隣諸国からの電子メールを受け取ることができる。高度な機能のついたコンピューターのスペル・チェッカーはこの情報技術のための良いツールになるだろう。今後、翻訳コンピューター・プログラムによって、皆が自分の母国語で話しながら、電話で連絡を取り合うことが可能になるだろう。今日からは、一つのバルカン語からもう一つのバルカン語に直接に翻訳するか、または英語の助けを借りて間接的にそうすることになるかは、我々次第ということになる。

コミュニケーションとビデオ技術の複合体によって、我々がお互いの伝統、儀式、民謡に精通する機会が与えられる。この点では仕事が必要である。

技術は我々が公的な好みを教育するのに役立つことができる。ビデオとコミュニケーション技術で補助された文学、映画、劇場、音楽、ビジュアル芸術は、倫理と道徳を形成することができるようになる。疎外や広範囲な残酷さや暴力などを理由にグローバル主義を批判するべきではない。

すべてのバルカン文化のイベントの組織化において、一定の伝統がある。コミュニケーション技術はすべてのバルカン諸国および非バルカン諸国が見ることができる機会の実現に貢献するだろう。

もしバルカンにいる我々が多文化の人々に見せる価値があると考えるものを持っているとすれば、技術(グローバル主義)は我々にとって助けになることができる。技術は文化的な対話の助けとなり、その結果、諸文化が豊かになる。

我々はお互いをより良く知るのに助けとなる技術の成功だけを当てにしてはいけない。哲学者たちは南東ヨーロッパの哲学者協会を設立した。これは賞賛に値するイニシアチブである。他の諸協会も同様の土台の上に設立されている。そのようなイニシアチブは拡大しなければならない。

結論

ここまで述べたことから、我々は以下のように結論づけることができる。

1. バルカン諸国の諸文化と文化的アイデンティティを大切にし発展するために、技術複合体を発展させる必要がある。このためにバルカン諸国の政治指導者たちは、バルカンの諸文化の発展と保護に直接または間接的に関連するそれらの技術の進歩を奨励しなければならない。一つのバルカンの言語から他のバルカンの言語に翻訳するためのソフトを開発するために、共通の組織を創設したら良い。

2. バルカンの知識人はバルカン諸国の和解のために働かなければならない。何が我々をより密接にしてくれるかを探さなければならない。

参考文献

Lester C. Thurow. *Building Wealth. The New Rules for Individuals, Companies, and Nations in a Knowledge Based Economy.* 1999.

Toffler, Alvin. *The Third Wave*. 1980.

Toffler, Alvin. *Previews & Premises*. New York, 1984.